［狛江市］学校運営協議会：議事録

会議の名称	令和８年度第２回三中ゾーン学校運営協議会
開催日時	令和８年９月 18 日(金)　16 時 30 分～18 時 00 分
開催場所	狛江市立和泉小学校　図書室
出席者氏名	岩瀬 敏郎　鷲見真太郎　繁平 光伯　白井　誠　峯岸 政夫 毛塚 敬進　小野 良平　森　勇貴　山口あずさ　片柳久美子 梶川　朋
欠席者氏名	細野 誠治　丸島 寛範　羽曽部 陽　森倉　直　恒松 克治 毛塚 明善　伊藤ゆかり
傍聴者	０名
議題	１．各校の児童・生徒の様子 ２．令和８年度業務量管理・健康確保措置の実施に関する基本方針 ３．校内カフェ「みんなの居場所」の取組 ４．「魅力ある学校づくり」について ５．その他
協議要旨	◇ 和泉小学校教職員に学校運営協議会委員を紹介 ◇ 会長あいさつ ・これからの時期に地域の行事があるので、ご協力をお願いしたい。 ◇ 校長あいさつ ・和泉小校長 市内各ゾーンで取組内容は違うが、三中ゾーンでできることをやっていきたい。みんなが住んでいるこの街、子どもたちのためという考え方で取り組めるとよい。 ・狛江三中校長 ２学期が始まり、台風接近や天候不良等で子どもたちの安全や各家庭の状況を考慮した判断を求められた。生徒たちの学校生活も徐々に軌道に乗ってきており、今後も保護者や地域との連携を大切にしながら、安心して学べる環境づくりを進めていきたい。 ～協　議～ １．各校の児童・生徒の様子 ・狛江三中 教職員が学年の枠を超えて互いに支え合う雰囲気があり、生徒たちは素直で前向きな姿勢をもっていて、授業や学校生活にも前向きに取り組んでいる。教職員同士の良好な関係が生徒指導や教育活動にもよい影響を与えており、子供たちが安心して生活できている。 ・和泉小 三中ゾーンでは、「自分らしさを発揮し、多様性を受け入れられる子ども」の育成を目標に、子どもたちに身に付けさせたい力を共有し情報交換や連携を行うことで、９年間を見通した教育活動を進めている。また、地域とのつながりを重視した取組として、６年生を対象に起業家教育を実施し、働くことや地域への思いについて学ぶ機会を設けたことにより、子どもたちは将来や社会との関わりについて考える貴重な経験を積んでいる。さらに、高学年ではチーム担任制を導入し、多様な視点から子どもたちを支援している。多くの教職員で子どもたちを見守ることで、中学校への円滑な接続や主体的な学びの充実につなげている。夏休み明け以降は子どもたちは概ね元気に過ごしているが、一部でインフル

	エンザの流行による学級閉鎖も発生している。今後も健康管理を徹底しながら安全・安心な学校生活の維持に努めていきたい。 ２．令和８年度業務量管理・健康確保措置の実施に関する基本方針 ・学校では教職員が健康で働き続けられる環境づくりを目指し、「業務量管理・健康確保措置実施計画」を策定した。時間外勤務を月45時間以内に抑えることや、有給休暇の取得促進、高ストレス者の割合の低減などを目標として掲げている。現状では、小・中学校ともに時間外勤務の平均は概ね目標に近い水準で、今後も改善を進めていく。具体的な取組として、教育課程の見直しによる授業時数の適正化やICT活用による業務効率化が進んでいる。また、学校の電話をスマートフォン化し、留守番電話機能を導入することで勤務時間外の負担軽減も図られている。こうした働き方改革は業務削減だけが目的ではなく、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保し、より質の高い教育活動を実現することを目的として進められている。 ３．校内カフェ「みんなの居場所」の取組 ・地域と学校をつなぐ新たな取組として、「みんなの居場所」を活用した校内カフェを開催する予定で準備している。この取組は、地域住民や保護者、地域活動団体などが協力して、多様な人が気軽に集い交流できる場をつくることを目的としている。学校施設を地域に開放することで、子どもたちだけでなく地域住民同士のつながりを深め、地域全体で子どもたちを支える環境づくりにつなげようとしている。企画には地域で活動する様々な方々が関わっており、学校や地域への理解を深めるとともに、新たな交流や協働のきっかけとしていきたい。 ４．「魅力ある学校づくり」について ・魅力ある学校づくり推進連絡協議会では、将来の学校施設や学校の在り方について継続的な議論が行われている。保護者と学校とのコミュニケーションのあり方や、教職員の多忙化、地域との連携の進め方などが課題である。また、今後の人口動向や社会状況の変化を見据えながら、施設の建て替えや統廃合の可能性も含めた検討が必要。その中で、学校だけで教育課題を抱えるのではなく、保護者や地域住民を含めたコミュニティ全体で子どもたちを育てる仕組みづくりがますます重要になる。これからの学校づくりに向けて、地域との対話を重ねながら方向性を検討していく。 狛江市魅力ある学校づくり推進連絡協議会で議論を進めている上記内容をもとに、４つのグループに分かれて、それぞれのテーマで協議を行った。 ～グループでの協議後のまとめ～ ・グループ(1)「多様性・子供の主体性と失敗を通した学び」 近年の子どもたちは失敗を避ける傾向が強く、正解やマニュアルを求める場面が増えている。その背景には、家庭や学校で安全性を重視するあまり、制限される経験が増え、自分で考えたり挑戦したりする機会が減っていることがあるのではないか。今後は、地域や学校が子どもたちにすぐ答えを与えるのではなく、「どうしたいのか」「どう考えるのか」を問いかけながら、失敗を経験でき

	る環境を整える必要がある。 ・グループ(2)「ＰＴＡ活動と保護者・地域とのつながり」 　他市でＰＴＡが廃止された事例では、学校と保護者が直接つながる機会が減り、日常的な対話や意見交換の場が失われてしまった結果、相互理解が進まず、問題が起きた際に大きなクレームにつながる可能性もある。また、現在は保護者の学校への期待も変化しており、以前のように生活指導を学校へ求めるだけでなく、学習面や子どもへの関わりを重視する傾向が見られる。今後は、保護者が気軽に学校へ足を運べる環境づくりや、ＰＴＡ活動に参加する保護者の負担軽減を図りながら、学校・家庭・地域のつながりを維持していくことが必要である。 ・グループ(3)「地域活動の継続と防災・人材活用」 　地域の高齢化が進む中、行事やイベントを持続可能な形で運営していくためには、世代を超えた担い手の確保が必要である。また、学校や子どもたちと関わりたい地域人材は多いものの、責任の範囲や謝礼の有無などが課題となり、活動への参加につながりにくい現状である。その解決策として、予算や助成制度の活用に加え、近年増加している自然災害を踏まえて、小・中学校や児童館、地域が連携した防災訓練や情報共有を充実させることで、子どもたちの安全確保や地域防災力の向上につなげていく必要がある。 ・グループ(4)「教員と地域の関わりと働き方改革」 　管理職と地域とのつながりは比較的ある一方で、一般の教員が地域行事や地域活動に参加する機会は減少している。その背景には教員の働き方改革があり、勤務時間の適正化が進む中で、休日や勤務時間外に地域活動へ参加することが難しくなっているという課題がある。また、若手教員はコロナ禍の影響もあり、地域とのつながりを経験する機会が少なく、その価値を実感しにくい状況もある。一方で、教員が地域行事に参加すると子どもや保護者との関係が深まり、地域との信頼関係づくりにも大きな効果がある。今後は教員の負担に配慮しながらも、地域との関わりの意義を共有し､無理のない形で交流を促進していくことが必要である。 ５．その他 ・コロナ禍において子どもたちが様々な制約の中で学校生活を送ってきたことを振り返ると、地域とのつながりの重要性が増していると感じる。長くマスク生活が続いたことで子どもたちの表情を見る機会も少なかったが、現在は地域活動や学校行事を通じて笑顔が戻りつつある。今後は、地域の活動や交流の機会をさらに増やし、子どもたちが多くの経験を積める環境を整えていきたい。また、新しく地域に入ってくる家庭や子どもたちも自然に受け入れられる温かい地域づくりが必要であり、学校・地域・保護者が協力しながら子どもたちの成長を支えていきたい。
次回の予定	令和８年 11 月 27 日(金)　於狛江三中